

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3190689号
(U3190689)

(45) 発行日 平成26年5月22日 (2014. 5. 22)

(24) 登録日 平成26年4月23日 (2014. 4. 23)

(51) Int. Cl.

A 4 5 D 33/34 (2006.01)

F 1

A 4 5 D 33/34

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2014-1079 (U2014-1079)
(22) 出願日 平成26年3月3日 (2014. 3. 3)(73) 実用新案権者 598122289
株式会社石原商店
大阪府大阪市天王寺区細工谷 1 丁目 3 番 1
4 号
(73) 実用新案権者 392003018
雪ヶ谷化学工業株式会社
東京都大田区大森北 6 丁目 2 3 番 2 2 号
(74) 代理人 100087538
弁理士 鳥居 和久
(74) 代理人 100085213
弁理士 鳥居 洋
(72) 考案者 井上 宏和
大阪府大阪市天王寺区細工谷 1 丁目 3 番 1
4 号 株式会社石原商店内

最終頁に続く

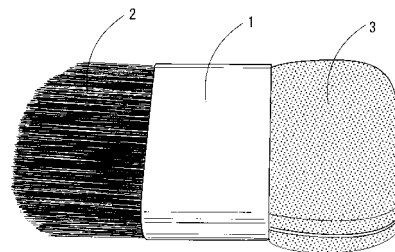
(54) 【考案の名称】 ブラシ付き化粧用パフ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 コンパクト容器や化粧ポーチから化粧用パフと化粧用ブラシを別々に取り出すことなく、一つの化粧具として手軽に化粧を行えるようにしたブラシ付き化粧用パフを提供する。

【解決手段】 ブラシ部 2 とスポンジ製のパフ部 3 とを持ち手部 1 を挟んで一体化することにより、携帯に便利で、使用に際して、持ち手部 1 を持ってブラシ部 2 とスポンジ製のパフ部 3 とを使い分けることにより、化粧用パフと化粧用ブラシを持ち替えることなく、一つの化粧具により化粧の仕上げやメイク直しを思いのまま行えるようにした。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

持ち手部を挟んで一方にブラシ部、他方にスポンジ製のパフ部を一体に設けたことを特徴とするブラシ付き化粧用パフ。

【請求項 2】

前記スポンジ製のパフ部の内部に、樹脂製の補強芯が挿入されている請求項1記載のブラシ付き化粧用パフ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

この考案は、化粧用パフと化粧用ブラシとが一体になったブラシ付き化粧用パフに関するものである。

【背景技術】

【0002】

化粧用パフは、スポンジ素材又はベルベット等の生地素材からなり、ファンデーション等の化粧品を皮膚に塗布する際に使用される。

【0003】

また、化粧用ブラシは、付け過ぎたファンデーションをばかしたり、ファンデーションをふんわりナチュラルに仕上げたりする際に使用される。

【0004】

20

したがって、化粧を行う際には、化粧用パフと化粧用ブラシを両方使用する人が多い。

【0005】

このため、従来、化粧用のコンパクト容器や化粧ポーチには、化粧用パフと化粧用ブラシを別々に収容しており、コンパクト容器や化粧ポーチから化粧用パフと化粧用ブラシを取り出し、仕上げや化粧部位に応じて、化粧用パフと化粧用ブラシを持ち替えて化粧を行っている（特許文献1）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

30

【特許文献1】特開平10-5036号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

ところが、仕上げや化粧部位に応じて、化粧用パフと化粧用ブラシをいちいちコンパクト容器から取り出して化粧を行うことは面倒なことも多い。

【0008】

そこで、この考案は、コンパクト容器や化粧ポーチから化粧用パフと化粧用ブラシを別々に取り出すことなく、一つの化粧具を持って手軽に化粧を行えるようにすることを課題とするものである。

40

【課題を解決するための手段】

【0009】

この考案のブラシ付き化粧用パフは、上記の課題を解決するために、持ち手部を挟んで一方にブラシ部、他方にスポンジ製のパフ部を一体に設けたものである。

【考案の効果】

【0010】

この考案に係るブラシ付き化粧用パフは、ブラシ部とスポンジ製のパフ部とが、持ち手部を挟んで一体化されているので、携帯に便利であり、使用に際しては、持ち手部を持ってブラシ部とスポンジ製のパフ部とを使い分けることができるので、化粧の仕上げやメイク直しを思いのまま行うことができる。

50

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】この考案に係るブラシ付き化粧用パフを示す斜視図である。

【図2】この考案に係るブラシ付き化粧用パフの縦断側面図である。

【考案を実施するための形態】

【0012】

この考案の実施形態を、図面に基づいて具体的に説明する。

【0013】

図1及び図2に示す実施形態のブラシ付き化粧用パフは、扁平な環状のアルミニウム等の金属製の持ち手部1の一方に、扁平なブラシ部2の基部を挿入し、他方に扁平なスポンジ製のパフ部3の基部を挿入したものである。持ち手部1は、樹脂によって形成してもよい。

10

【0014】

口金1と、ブラシ部2の基部、パフ部3の基部とは、接着剤により接着されている。

。

【0015】

扁平なパフ部3の内部には、パフ部3の扁平な樹脂製の補強芯4が挿入されている。

。

【0016】

補強芯4の口金1に挿入される端部には、持ち手部1の内面に接着される厚肉部5が形成されている。

20

【0017】

例えば、ポリウレタンスポンジによって形成することができる。

ブラシ部2の毛素材は、人造毛でも、天然毛のいずれでもよい。

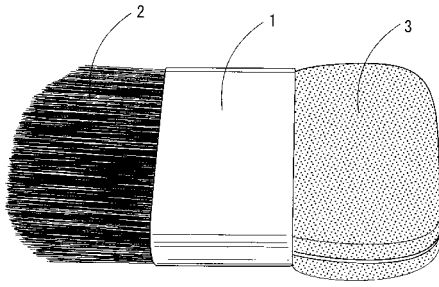
【符号の説明】

【0018】

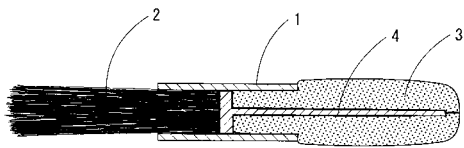
- 1 持ち手部
- 2 ブラシ部
- 3 パフ部
- 4 補強芯
- 5 厚肉部

30

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

(72)考案者 西野 嘉奈子

大阪府大阪市天王寺区細工谷1丁目3番14号 株式会社石原商店内